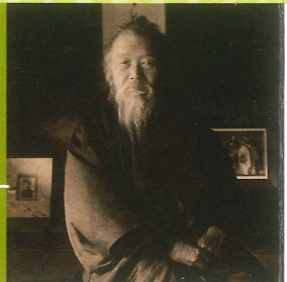
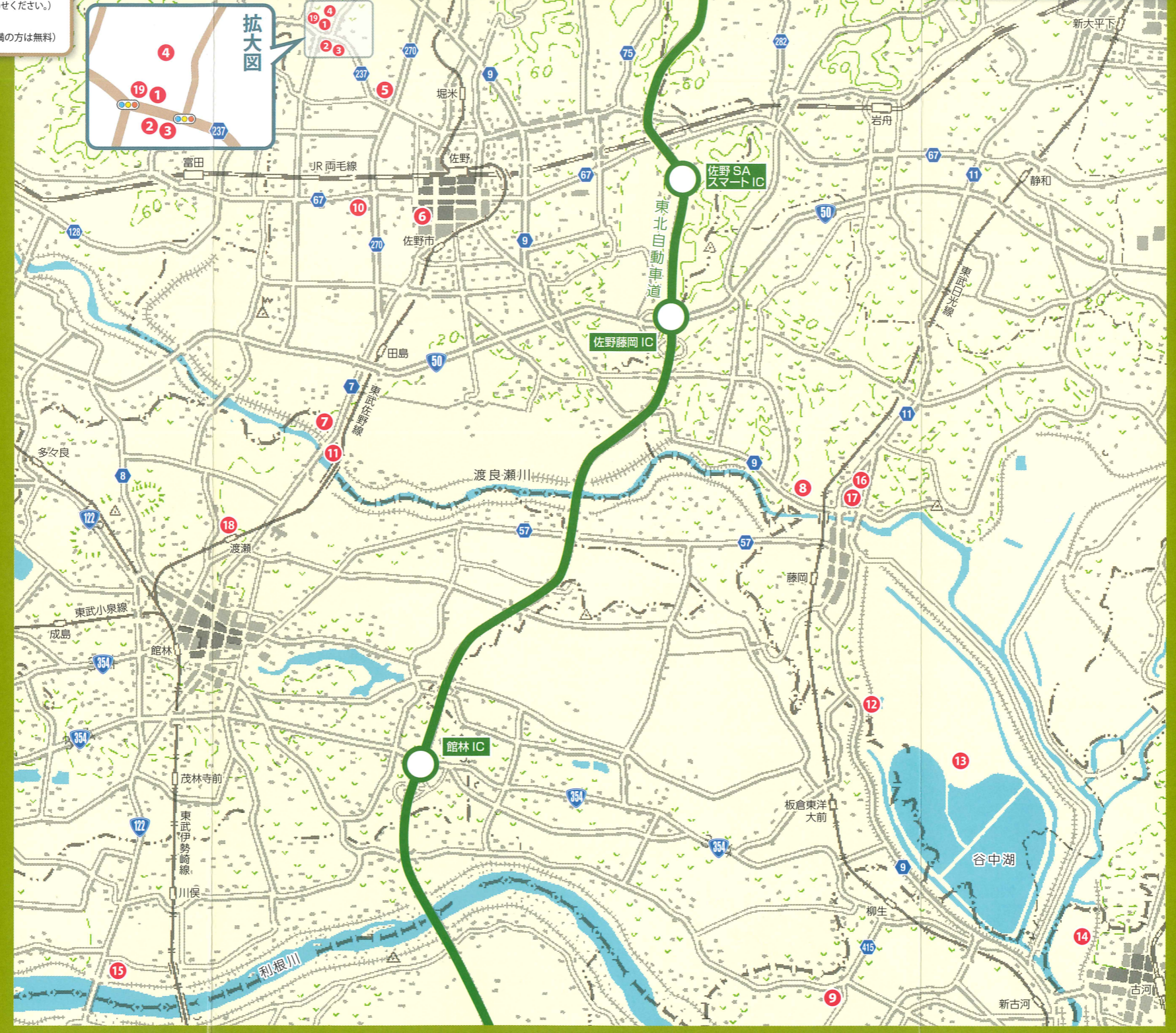


田中正造

ゆかりの地MAP



田中正造 (1841～1913)
天保12年(1841)に安蘇郡小中村(現・栃木県佐野市小中町)に生まれた田中正造は、明治時代の政治家で、足尾銅山から流出する鉛毒事件を追及し、大正2年(1913)に亡くなるまで、鉛毒問題の解決に一生を捧げた人です。
人権擁護と自然保護の先駆者としても知られています。



1 田中正造旧宅 (栃木県指定史跡)
小中町975 ☎0283-24-5130

県道に面して表には隠居所・表門・便所が、裏には母屋・土蔵などが残されています。隠居所は、両親と正造夫妻が雑貨商を営み生活していた場でした。母屋は正造が生まれた場所であり、後年は村の診療所となり地域のために利用されました。

大正2年(1913)1月22日の日記に「此夕手紙を小中二遺し正造の財産の一切を小中農教会二寄附す。」とあるように、正造は故郷の産業の復興と精神の回復に役立ててほしいとの思いから、宅地と田畑の全財産を寄付します。その思いを受け、以来小中農教会は旧宅の維持管理に当たっています。

公開日 毎週 火・木・土・日曜日(詳しくはお問い合わせください)
公開時間 10:00～16:00
入館料 一般300円(70歳以上・障がい者・18歳未満の方は無料)

2 田中正造誕生地墓所
(佐野市指定有形文化財)

正造の分骨地の一つ。正造と共にカツも合祀されています。大正5年(1916)に建立された墓石の題字「義人田中正造君碑」を島田三郎が書き、養笠姿の正造を小堀鞆音が描いています。

3 阿弥陀堂

阿弥陀堂は、儒者の赤尾小四郎(号・鷲州)を迎えて村塾を開かせ、郷里の子弟に学問を授けた場所です。正造も赤尾塾に通い、四書五経等を学びました。この赤尾塾からは、その後小中村をはじめ近隣の指導的人物を多数輩出しています。

4 浄蓮寺 小中町998

田中家の菩提寺で、田中家累代の墓所のあるお寺です。小中農教会本部主催の正造とカツの法要が、毎年9月1日に行われています。

5 地藏堂

明治2年(1869)、正造は六角家騒動で小中村から追放されてしまいます。そのため正造は、この地藏堂に居住し、手習い塾を開きます。現在は、御堂はありませんが道端の榎の木が当時の面影を残しています。

6 春日岡山惣宗寺 (佐野厄除け大師)
金井上町2233

正造の分骨地の一つ(佐野市指定有形文化財)。佐野厄除け大師としても有名な惣宗寺。正造が自由民権運動を始め、安蘇結合同会(後の中節社)を結成し、その拠点となる事務所が置かれたのがこの惣宗寺です。大正2年(1913)10月12日には、正造の本葬も行われました。正造のお墓の前には、直訴に感銘を受けた石川啄木の歌が刻まれた碑もあります。毎年9月4日の命日には、法要が行われています。

7 雲龍寺 館林市下早川田町1896

正造の分骨地の一つ(館林市指定史跡)。明治29年(1896)10月、正造はこの雲龍寺に栃木群馬両県鉛毒事務所を設けました。以来足尾銅山鉛毒停止請願事務所として、四県(栃木・群馬・茨城・埼玉)被害民の鉛毒停止運動の拠点となります。被害民が「押出し」を行う際には、雲龍寺に集まり鉛毒悲歌を歌いながら東京へ向かいました。大正2年(1913)9月6日には、正造の仮葬も行われ、正造のお墓のかたわらには、「救現堂」や「足尾鉛毒事件被告之碑」などもあります。

8 田中霊祠

正造の分骨地の一つ。大正2年(1913)、旧谷中村に分骨された正造の遺骨は、大正6年(1917)、河川改修のため現在地に移動されました。現在の建物は、昭和32年に新築されたものです。分骨葬が神式で行われたため、霊祠には鳥居があり、毎年4月上旬には例祭が行われています。

9 北川辺霊場
(加須市指定史跡)

正造の分骨地の一つ。遊水池化計画の候補地になった利島・川辺両村は、明治35年(1902)1月、遊水池化反対闘争を展開します。正造も協力し、一年近くたたかいたが抜いた結果、遊水池化計画を排除しました。正造への感謝の気持ちを込め、川辺・利島両村民が分骨埋葬しました。

10 佐野市郷土博物館
大橋町2,047 ☎0283-22-5111

昭和58年11月に開館。田中正造関係資料は、直訴状・遺品など約100点を特別展示室で常時公開しています。その他にも郷土の考古・歴史・民俗資料を展示しています。

開館時間 9:00～17:00
休館日 毎週月曜日、祝日の翌日(月曜日が祝日のときは、翌日が休館)その他休館日あり。(詳しくはお問い合わせください)
入館料 無料(企画展開催時のみ有料)

11 庭田家 (田中正造終焉の地)

大正2年(1913)8月、正造は庭田家に立ち寄った際、倒れてしまいます。正造を救おうとたくさんの方が看病し、またお見舞いに来ました。しかし同年9月4日午後0時50分、息を引き取ります。病名は胃がんでした。正造終焉の部屋は、今も庭田家の方々により大切に守られています。

19 小堀鞆音生誕の地

明治・大正に活躍した歴史画家の小堀鞆音(1864～1931)は田中正造と同郷であり、明治23年、栃木県議会議長時代の田中正造の媒酌で結婚式を挙げています。また鞆音は田中正造誕生地墓所に養笠姿の正造を描いています。

18 NPO法人 足尾鉛毒事件 田中正造記念館
館林市大手町6-50 ☎0276-75-8000

田中正造を顕彰し、足尾鉛毒事件の資料を集めた記念館です。パネルなどにより正造や鉛毒事件について学ぶことができます。

※平成25年秋一館林市大手町甲839-1へ移転予定
開館日 火・木・土・日曜日(詳しくはお問い合わせください)
開館時間 10:00～16:00 入館料 無料

17 田中正造銅像

昭和53年6月、藤岡町と藤岡栃木ライオンズクラブ、田中会が中心となって建立しました。高さ3.3m、台座の高さは3.7m。富山県高岡市、砂原放光作。「田中正造翁」の筆跡は、正造の秘書的な存在として尽力した島田宗三のもので、銅像の近くには、雨宮義人撰文の正造の生涯を記した碑もあります。

16 栃木市藤岡歴史民俗資料館
栃木市藤岡町藤岡812 ☎0282-62-4569

昭和55年11月に開館。当地の考古・歴史・民俗資料を展示しています。田中正造関係では、正造の身に付けていた着物・羽織・一本下駄などが展示されています。

開館時間 9:00～16:30 入館料 無料
休館日 毎週月曜日、祝日の翌日(月曜日が祝日のときは、翌日が休館)12/29～1/3 (詳しくはお問い合わせください)

15 川俣事件衝突の地

明治33年(1900)2月13日、鉛毒被害民は足尾銅山の鉛毒停止を求めて上京請願する「押出し」(第4回目)を決定します。しかし、佐貫村大佐貴(現群馬県明和町)の利根川手前で警官隊と衝突。多くの負傷者・逮捕者をだして阻止されてしまいます。この歴史的な事件を「川俣事件」と言います。平成11年12月には、当時の事件の発生場所を「川俣事件衝突の地」として明和町指定史跡としています。また平成12年2月13日で事件発生後100年経過。これを機に記念碑を建立しています。

14 田中正造翁遺徳之贊碑

旧古河藩に属していたこともある谷中村、そのため正造の支援者も多かった古河市。渡良瀬遊水池の東端の土手(古河ゴルフリンクス・クラブハウス前)に、碑は建てられています。

13 旧谷中村跡

谷中村は、周囲を堤防で囲まれ、自然豊かな村でした。ピーク時には、約380戸、2,500人近くの人々が住んでいたといわれています。

明治36年(1903)、鉛毒調査委員会は「足尾銅山二関スル調査報告書」の中で渡良瀬川沿岸の氾濫は堤防の修築だけでは防止できないから、渡良瀬川の流量を一時的に留める遊水池を設ける必要性を述べています。谷中村は、埼玉県利島・利島両村と同じように遊水池の候補地となります。正造も谷中村と一緒に住み、遊水池化計画に反対しましたが、谷中村は明治39年(1906)藤岡町に合併され、廃村に追い込まれてしまいます。

12 合同慰霊碑

昭和46年4月、建設省が旧谷中村の子孫の方たちの要望で、遊水池内に散在した無縁墓地等を移転し、慰霊碑を建設しました。なお、一部子孫の方の墓地は、今なお旧谷中村跡に残っています。

日光例幣使道と 付近の史跡



1 二柱神社

現存する本殿(栃木県指定有形文化財)は天明3年(1783)に再建されている。建物全体を埋め尽くした彫刻は、富田(現栃木市)在住の名工、磯辺儀左衛門(3代目)秀重の代表作である。



9 朝日森天満宮

祭神は菅原道真。例幣使一行は天満宮の崇敬が厚く、必ず参詣し色紙や短冊などを奉納した。境内には天明2年(1782)に建てられた陽明学者中根東里の撰文による菅神廟の碑(佐野市指定有形文化財)がある。



10 佐野城跡(春日岡城)

佐野信吉の居城。慶長5年(1600)築城開始、慶長7年に完成し唐沢山城から移った。慶長19年(1614)の改易に伴い廃城となる。城跡は独立丘陵を利用した連郭式の平山城で、本丸をはじめとする主郭は良好な状態で現存している。佐野市指定史跡。



11 犬伏宿本陣跡

犬伏宿本陣は現在の犬伏小学校の位置に当り、門構・玄関付の建坪60坪程の構えであった。旅籠屋は犬伏・堀米町で44軒あった。なお、本陣の経営には代々岩間家が当たっていた。



12 米山古墳

独立丘陵上に築造された古墳群で頂部に1基、斜面に数基の古墳が認められている(栃木県指定史跡)。西麓には薬師堂があり、近年地元町会により「真田親子犬伏の別れ」の地の案内板が建てられた。



3 出流山拳兵者処刑の地

慶応3年(1867)の出流山事件は、薩摩藩が中心となり、出流山を拠点に倒幕の兵を挙げた事件である。この事件で捕らえられた40数人が、同年12月に天明河原(秋山川)で打首となった。秋山川左岸にある熊野神社には近年建立された出原天狗殉難の碑がある。



8 星宮神社

天明宿の氏神である。境内の半分は丘陵であるが、もとは円墳の可能性もある。また佐野城築城の際に外堀の土を盛り山上を広くしたとも伝えられる。享保20年(1735)銘のある銅像鳥居は天明鋳物師が作り、天明町の氏が奉納したものである。(佐野市指定有形文化財)



現在の様子



昭和初期の殿町通り

7 天明宿本陣跡

本陣は江戸時代、諸大名や勅使などの旅行に備えて街道沿いの各宿場に設けられた旅宿である。天明宿本陣は門構・玄関付の建坪90坪程の構えであり、代々松村家が本陣の経営に当たっていた。



2 須永元邸宅跡

須永元邸宅があったところは、現在市営プールになっている。
須永元(1868～1942)は、明治時代の漢詩人。岡本黄石の愛弟子となり多くの学者、文人と接した。一方、朝鮮問題に関心を持ちその活動を援助した。須永邸には金玉均をはじめとする多く朝鮮独立運動家も訪れている。
須永が収集した和洋書・漢籍・書画は「須永文庫」として郷土博物館と図書館に保管されている。



現在の様子



江戸～明治時代の大橋

4 天明大橋

現在の大橋は昭和3年(1928)に架けられたもので、それ以前は中橋との中間にあった。江戸時代の橋は長さ21m、幅3.6mの木製で、弧を描いた形をしており、別名猿橋とも呼ばれていた。



5 惣宗寺

境内には徳川家康の柩が日光山へ遷葬の際一夜安置されたことから、東照宮社殿(栃木県指定有形文化財)が建立されている。明暦4年(1658)作の銅鐘は天明鋳物師の鑄造技術の最高峰を示した梵鐘である。田中正造の分骨地墓所もある。



6 観音寺

境内には、寛文9年(1669)に作られた銅像阿弥陀如来座像(佐野市指定有形文化財)がある。蓮華座に陰刻される662字によると天明鋳物師・太田小左衛門ほか2名の作で、佐野家の家臣と伝えられる43名の篤信者と52か町村名が刻まれている。

